

老上学区まちづくり協議会

まちづくり計画

I まちづくり計画について

①計画策定の趣旨

平成24年2月5日、私たち老上学区において平成22年から設立準備をすすめてきた『老上学区まちづくり協議会』が発足しました。この協議会は、地域住民が主体となり、私たちがいつまでも住み続けたいと願う「ふるさと老上」をめざし、地域の豊かな自然や歴史、貴重な文化財を次世代に継承し、また、今後の予想される急速な人口増を老上学区の、ひいては草津市全体の原動力と捉え、愛着と誇りの持てるまちづくりを推進することを目的としています。

この協議会活動の基本になる考え方は、「自分たちの地域は自分たちでつくり、まもる」ことです。老上学区が持つ独自の課題には、自らが継続して考え行動していく姿勢が求められています。

そこで、私たちの「ふるさと老上」を見つめ直し、今後さらに愛着の持てる住みよい地域にするために、老上の将来像を創造し、その将来像を実現していくための手立てや方法を地域住民自らが考え描くまちづくり計画を策定するものです。

②計画期間

本計画の期間は平成29年（2017年度）から平成33年（2021年度）の5年計画としますが、その間の老上学区や草津市の状況、また国や社会情勢の動向を踏まえながら、柔軟に見直しを行うものとします。

Ⅱ 全体的な将来像

① 老上学区の現状と課題

全国的に少子高齢化が叫ばれる中、平成6年の南草津駅開業を機に老上学区では人口が急増し、今後も老上学区南西地区の大規模な宅地開発の計画で、更なる人口増が予想されます。平成28年の老上西との分離後は、地域全体の世帯数約4100戸、人口約9100人、高齢化率は19.3%で、その内既存の8町内会は世帯数約2300戸で残り約1800戸は、南草津駅前のマンション居住者や学生などです。未だ自治会が形成されていない地域もあり、今後の転入者を含めこれら居住者が「新しい老上」づくりに参加できる働きかけや、きっかけ作りが急務となっています。また、若い転入者の増加に伴い子ども達が健全に成長できる環境づくりも重要な課題となってきます。一方では、戦後に開発された町内会の多くが、今、高齢化と少子化の問題に直面しています。

さらには、近年の自然災害の発生とその甚大さ、また全国各地で発生する地震被害の発生状況をみると、老上でも災害に対する備えは必要なものであると誰もが実感しています。将来に対する不安を日ごろの活動で軽減できるような取り組みが必要となっています。

平成28年にそれまでの老上学区が東西に分かれたのを機に、今までの活動を基盤としながらも、老上学区の課題解決のため、独自の新たな展開が求められています。

② 基本理念

都市化が進む一方、まだまだ老上には豊かな自然が残っています。この豊かな自然の中で、地域がはぐくんだ文化と歴史を大切に、安全・安心に人と人との交流を大切に、自然災害に強いまちを目指します。

③ スローガン

基本理念を踏まえ、計画を達成するため、スローガン（将来像）を掲げます

“ 生き生き活気あふれる老上をみんなの手で！ ”

Ⅲ まちづくり実施計画

老上学区の目指す将来像をスローガンに定め、具体的な取り組みのために3つのまちづくりの基本方針を掲げます。

まちづくり基本方針

- ア 人とひととの絆・交流を大切にするまちづくり
- イ 安全・安心に暮らせる豊かなまちづくり
- ウ 豊かな自然・文化・歴史の中で、子どもの夢を育てるまちづくり

Ⅳ 計画の展開（主要事業）

将来像「生き生き活気あふれる老上をみんなの手で！」の実現に向けた3つのまちづくり基本方針に基づき、次の事業等に取り組んでいきます。

【 ア 】人とひととの絆・交流を大切にするまちづくり

事業名	内容
ふれあい事業	学区ふれあいまつり・スポーツ大会
組織拡大事業	自治会作りの働きかけ等で、組織拡大を
キャラクター展開事業	地元を象徴するキャラクターで、心を一つに

【 イ 】安全・安心に暮らせる豊かなまちづくり

事業名	内容
支え合い事業	「老上みらい応援隊」の推進
緊急支援事業	いざ！という時の情報発信・SOS
見守り事業	あいさつ・声かけ運動

【 ウ 】豊かな自然・文化・歴史の中で、子どもの夢を育てるまちづくり

事業名	内容
伝える事業	日本の四季を伝統行事で伝えよう
ふるさと発見事業	新・発見老上カルタ